

飯能市学びの改革への挑戦について

1 「学びの改革」

(1) 学びの改革で目指す授業像

飯能市では、次のような授業によって「学びの改革」を具体化します。

○ 創造的・探究的・協同的な学び

- ・ 自らの生活や生きた社会から問題を見つけ、解決していく学習
- ・ 一人も独りにしない子ども同士協同的な学習
- ・ 質の高い学び（子どもが夢中になって取り組む「挑戦」のある学習）



学び合う児童（双柳小学校）

○ 豊かな自然環境や特色ある地域の資源、人材を生かす体験的な学習

- ・ 教室に留まらない、飯能市の豊かな自然環境の中での体験的な学習
- ・ 地域の産業や歴史、教育的な人材から学ぶ学習



稲作体験（南高麗小）



カヌー体験（名栗小）

○ 「学び」のツールとしての最先端ICTの活用

- ・ 「教える」ツールではなく「学び」のツールとしてのタブレット端末の活用
- ・ 問題解決的、協同的、体験的な学習をサポートするコミュニケーションツールとしてのタブレット端末等、ICT機器を活用した学習



タブレットで学び合う児童(富士見小)

(2) 飯能市が連携・協働する教育資源

飯能市は、「学びの改革」のため、次の教育資源と連携・協働していきます。

○ 地域の大学・産業・地域住民等の教育資源

- ・ 駿河台大学、県立高校、林業家、メツツァ等の企業と連携します。



駿河台大学と連携してのプログラミング教育(南高麗中)

自動車のプログラミング

3Dプリンタのプログラミング

○ 豊かな自然、森林資源

- ・ 「持続可能な発展都市」飯能の未来を担う児童生徒を育成するため、飯能市の豊かな自然、森林資源を生かした体験活動を行っていきます。



エコツアー（飯能第一小）



林業体験（原市場中）

○ フィンランドとの交流

- ・ 協同的な学び、ICTを活用した学びを世界に先駆けて導入し、PISA調査の「読解力」で輝かしい成果をあげているフィンランドとの交流により、教育の質を高めます。

(3) 学校研究を核とする教職員の育成

- ・ 専門家として謙虚に学び合う学校研究（授業研究）を推進します。



授業研究（学校研究）



授業研究後の協議

(4) 飯能市の「学びの改革」にとって重要なICT環境整備

- 「問題解決的な学習」に不可欠な「探究」と「協同」を強力に推進できる。
 - ・ 個々の考えやグループの「思考」「探究」を学級全体で共有できる。
- 「多面的な読解力（マルチリテラシー）」を効果的に育成できる。
 - ・ 場所を選ばず情報を入手、活用できる。（PISAで重視）
- 海外を含め、多様な人々と交流することができる。
 - ・ 山間部が多い飯能市は、潜在的に遠隔教育の重要性がある。



アメリカ在住卒業生による英語学習
(飯能第二小)



読み聞かせボランティアが活用
(飯能第一小)

2 飯能市G I G Aスクール^{※1}

(1) 飯能市G I G Aスクールの考え方

本市では、第5次総合振興計画の基本構想のまちづくりの基本目標に「ICTを活用した新しい教育環境づくり」を掲げ、ICT環境の向上に取り組み、児童生徒の情報活用能力を育成してきました。

この総合振興計画を踏まえ、第3次教育振興基本計画において、「学びの改革」を一層進めるため、奥武蔵創造学園の理念を市内全小中学校に広げ、世界最先端の教育に挑戦する「学びの改革」の実現に向けて取り組んでいます。

その重要施策の一つとして、令和2年9月に埼玉県内最速で、LTE^{※2}型タブレット端末を「1人1台」、全小中学校の全児童生徒に導入しました。

※1 G I G Aスクールとは、Society5.0時代に生きる子供たちの未来の見据え、児童生徒向けの1人1台学習用端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する国におけるG I G Aスクール構想(Global and Innovation Gateway for All)を踏まえ、誰1人取り残すことなく子ども達1人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現に向けた施策。

※2 LTEとは、Long Term Evolutionの略で、携帯電話通信規格の1つ。高速化と低遅延、多接続の3点に重きを置いて生まれた通信規格。

(2) LTE型タブレット端末の活用状況

○ 休校中、出席停止等での活用



休校中のリモート授業(奥武蔵中)



ハイブリット授業(加治小)

○ 社会科見学等、校外学習での活用



原木市場見学（奥武蔵小）



川越市内見学（富士見小）

- 家庭への配布物、緊急連絡での活用
- 教職員の働き方改革につながる活用

3 放課後子ども教室の実施

令和元年度、地域の全ての児童を対象に、子どもたちに学びの場・運動の場・交流の場という3つの活動を基本とした体験・活動の提供をすることを目的とする、飯能市初の「放課後子ども教室」を奥武蔵小学校に開設しました。

放課後子ども教室とは、放課後等に安心して安全な居場所を設け、地域の方々やプロの指導者の参画を得ながら子どもたちにさまざまな学習、体験及び交流活動の機会を提供する事業です。

本市では、地域で教育や文化芸術活動に携わる方等を講師とし、児童が、地域の方々と交流し地域の良さを感じられるプログラムを重視しております。また、駿河台大学教授によるプロの指導やソニー・ミュージックエンタテインメントによるミュージカル体験プログラム等「本物に触れることのできる」機会も提供し、勉強、スポーツ、文化芸術活動、地域住民との交流活動等のプログラムを通じて、子どもたちが心豊かに育まれる環境づくりに取り組んでいます。プログラムについては、児童や保護者からのアンケートも実施するなど、児童からの要望も取り入れながら、地域の特色を生かした様々な学習や体験及び交流が深められるものを作成しています。

奥武蔵小学校における放課後子ども教室は、学校の地理的要因によって下校後に子どもたちが友だちと過ごすことが難しい状況にあるために、友だちとのあそびや関わりの中で自然に身に付く「子ども同士のルール」や「小さな危険を察知する能力」などを養うことが難しくなっていることから、友だちと一緒に活動する時間、仲間づくりの場として、地域に望まれる魅力ある放課後児童対策活動となっています。

今後、奥武蔵小学校での取組を検証し、放課後子ども教室の実施校の増加に努め、子どもたちの安心安全な居場所の提供・更なる健全な育成に努めていきます。

年度	延参加者数	回数	備考
令和元年度	635人	16回	9月から開始
令和2年度	389人	12回	新型コロナウイルス感染症拡大のため、1学期、3学期は中止



ソニーミュージックによるミュージカル



リースづく

奥武蔵小学校の放課後子ども教室